

かお・人・interview

2025年11月6日

所長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局
国営海の中道海浜公園事務所 所長

酒井翔平氏

SAKAI Shohei

「海の中道海浜公園」と「吉野ヶ里歴史公園」は九州を代表する2つの国営公園だ。多くの方々に利用され、その必要性は広く認められているが、公園全体の魅力や価値を一層向上させていくためには園内施設を運営している民間事業者や地元自治体としっかりと協力することが必要だ。酒井所長は、公園の管理者として、インフラの維持管理などの下支えをした上で、一人一人のウェルビーイングを支えるという方針に向け、旗を振っていききたい考えだ。今後の公園づくりの課題について話を伺う。

Q所長就任にあたっての抱負

海の中道海浜公園と吉野ヶ里歴史公園という、特色ある二つの公園の魅力と価値を高め、今だけでなく将来にわたって一人一人の豊かな暮らし(Well-being)に貢献したいと考えています。そのためには、広いオープンスペースの中で、地域の自然や歴史文化を大切に守り育て、それらを最大限に活かす工夫が必要です。利用される皆さんにとって、安心で快適な空間となるよう、インフラの維持管理をしっかりとした上で、ハード・ソフトの両面で魅力アップのための取り組みを積極的に進めてまいります。

そのためにも、職員一人一人が自らの役割をしっかりと果たし、主体的かつ前向きに業務に取り組めるような職場環境づくりにも取り組みたいと思います。また、国の事務所だけでなく、園内で活動している民間事業者や地域の皆様とも十分に連携し、互いの力を合わせることで、公園が持つ可能性を最大限に引き出せるよう努めます。多くの方に親しまれ、愛される公園づくりに一層力を入れていきます。



▲海の中道海浜公園

Q九州や福岡県との関わり

出生は北海道ですが、福岡市が出身地です。高校卒業まで福岡で過ごし、九州の食や文化で育ちました。卒業後は関東や海外での仕事を経験し



▲吉野ヶ里歴史公園

て標準語に慣れていましたが、20年以上ぶりに福岡に帰り、懐かしい博多弁を浴びて心地良く感じています。

園内には施設を運営している民間事業者等が複数いることもあって、土地のオーナーのような感覚を持っています。来園者の満足度や公園全体の価値をどのように高めていくかを、経営的な視点で、全体を見渡しながらかえないといけません。

Q海外勤務で再確認した 広い視野で捉えるまちづくり

アフリカのケニアで大使館員として3年間勤務したことは忘れられません。日本とは大きく異なる文化の中で生活し、そこで得られた人生観や外からの日本の見え方に加え、仕事を通じて、道路や港湾などのインフラが国の発展を支える現実を体感しました。また、いわゆるインフラ整備だけでなく、経済発展に伴い、人が集まり開発が進む都市を計画的にコントロールする仕組みの重要性も間近で感じました。同時に、在住していた首都ナイロビでは、サファリで雄大な自然に触れ、開けた空間でスポーツをし、屋外で風を感じながら飲食をするなど、街中にある緑とオープンスペースが日々の生活を支えてくれていました。

これらの経験から、日本においても、広い視野でまちづくりを捉え、その上で、一人一人の心の潤いや生活の質を支える公園をしっかりと確保していこうという思いを再認識しました。

Q事務所の紹介

国営海の中道海浜公園事務所は、福岡県にある海の中道海浜公園と佐賀県にある吉野ヶ里歴史公園の2つを管理しています。組織構成としては、総務課・調査設計課・工務課・歴史公園課の4課あり、うち歴史公園課が吉野ヶ里歴史公園で勤務しています。

海の中道海浜公園及び吉野ヶ里歴史公園は、国事務所職員(約30人)だけでなく、管理センター、水族館(マリンワールド)、ホテル(ザ・ルイガンズ)、マリナー、青少年海の家、パークツーリズム等の園内施設の運営を行う多種多様な民間事業者(従業員約700人)と協力して公園全体を運営していることが、道路や河川等の他事務所にはない特徴です。現在、年間約340万人(海の中道:約270万人、吉野ヶ里:約70万人)に利用いただいています。



▲マリンワールド海の中道

Q今年度の事業概要

海の中道海浜公園では、公園全体の施設や自然環境の維持管理を行いながら、園内の魅力アップや、未供用の博多湾側海浜部や玄界灘側海浜部の整備を段階的に進める方針です。限られた予算の中でも、一つ一つの取り組みをしっかりと積み重ね、より良い公園づくりに力を注ぎます。特に今年度は、博多湾側海浜部について、隣接する雁ノ巣レクリエーションセンターとも調整しながら、整備を進めるための検討を深めていく予定です。

吉野ヶ里歴史公園については、2016年度に概成していますが、「弥生人の声が聞こえる」という基本テーマに基づき、復元建物等の維持・更新や適切な管理運営を通じて、その価値を高めていきたいと考えています。また、この公園は国営エリアと県立エリアで構成されており、県立エリアでは新たな官民連携の取組も進んでいます。今後も全体の一体的な管理・運営に努め、さらに魅力的な場所にしていきます。



◀吉野ヶ里
光の響

「GREEN×EXPO 2027」の他にも、 九州では、佐賀県での「全国都市緑化フェア」や 福岡での「Fukuoka Flower Show」など、 花や緑に関するイベントが目白押しです。

Q地域との連携・協働について

公園は、地域の皆様のご理解とご協力によって支えられています。ボランティアの方々が園内の樹木や花などの保全・育成に尽力されているほか、利用者のサポートやイベント運営、日々の見守りなど、さまざまな形で公園づくりに貢献していただいています。

また、公園は地域行事や住民同士の交流の場としても重要な役割を担っています。今後も地域と力を合わせて公園を育みながら、観光振興などを通じてまち全体の活性化にも取り組みたいと考えています。その際、両公園が位置する福岡市・福岡県、吉野ヶ里町・神崎市・佐賀県との連携も緊密にし、地域全体の発展を目指して協力していきます。

Q地域建設業への要望・メッセージ

地域の建設業界の皆様は、道路や河川、公園など九州のインフラを整備・管理し、人々の暮らしを支える重要な存在です。また、同じくインフラを守るパートナーでもあります。

特に造園建設業の方々には、樹木など自然の力を活かして、豊かな生活の場を作り出すスペシャリストで、これからの時代、ますます求められる存在になると考えています。



▲樹木の成長を促すための間伐工事

2027年には、日本・横浜で花と緑の博覧会である「2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)」が開催されます。さらに2028年には、佐賀県で「全国都市緑化フェア」が予定されています。私自身も、みどりや自然に関わる皆様と力を合わせ、これらのイベントを共に盛り上げていきたいと考えています。

Q健康法や座右の銘など

これまでも定期的に趣味のサッカーを楽しんでおり、これからも継続したいと考えています。最近では自転車通勤も始め、健康維持に努めています。家族で九州に来たので、海の中道海浜公園や吉野ヶ里歴史公園はもちろんのこと、九州各地を楽しみたいとも思っています。

座右の銘として、「不易流行」の考え方を大切にしています。与えられた業務を着実に遂行することは重要ですが、ただ日々を過ごすだけでは、気がつかないうちに時代に取り残されて沈んでいってしまいます。常に新しいことに挑戦する姿勢と、社会の動きを敏感に捉えられるようアンテナを張っておくことを意識しています。一方で、地域の自然や歴史文化を読み解き、今の時代に合う環境整備を行うという点が公園事業の特性です。これまでの先輩方や関係者が積み上げてこられたものを踏まえ、本質的な部分や変わらない価値をしっかりと学び、事業を進めていきたいと考えています。

プロフィール



福岡市出身 42歳
H20年4月 国土交通省入省
(国営昭和記念公園事務所)
H22年4月 都市局公園緑地・景観課 係長
H24年4月 都市局都市計画課 係長
H26年3月 外務省在ケニア日本国大使館 書記官
H29年7月 復興庁 参事官補佐
R1年5月 内閣府地方分権改革推進室 参事官補佐
R3年4月 都市局都市計画課 課長補佐
R6年7月 都市局都市環境課 課長補佐
R7年4月 現職